

(様式第4号)

上田市地域クラブ活動推進協議会（令和6年度第1回） 会議概要

|                                 |                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 審議会名                          | 上田市地域クラブ活動推進協議会                                                                                                                                                                       |
| 2 日時                            | 令和6年10月4日 午後7時から午後8時30分まで                                                                                                                                                             |
| 3 会場                            | 市役所本庁舎 5階 大会議室                                                                                                                                                                        |
| 4 出席者                           | 池田泰司会長、齋藤 毅委員、佐野正樹委員、鷹野優子委員、瀧澤利恵委員、<br>竹田貴一委員、畠山正幸委員、緑川 篤委員、宮本恵美委員、山崎浩成委員、<br>飯嶋政泰県東信教育事務所生涯学習課長（オブザーバー）、<br>由井正史県東信教育事務所指導主事（オブザーバー）                                                 |
| 5 市側出席者                         | 酒井秀樹教育長、小野沢和也教育次長、清水嘉永スポーツ推進課長、<br>宮下広志スポーツ推進課スポーツ推進担当係長兼交流スポーツ担当係長、<br>小林 穰文化政策課長、宮下淳夫文化政策課係長、長田泰幸学校教育課長、<br>川俣将人学校教育課学校教育担当係長、福澤行雄学校教育課指導主事、<br>松崎知枝学校教育課学校教育担当主査、綿内美季学校教育課学校教育担当主査 |
| 6 公開・非公開                        | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開                                                                                 |
| 7 傍聴者                           | 0人 記者 2人                                                                                                                                                                              |
| 8 会議概要作成年月日                     | 令和6年10月18日                                                                                                                                                                            |
| 協 議 事 項 等                       |                                                                                                                                                                                       |
| 1 開 会（事務局）                      |                                                                                                                                                                                       |
| 2 教育長あいさつ（酒井教育長）                |                                                                                                                                                                                       |
| 3 委員・市職員紹介                      |                                                                                                                                                                                       |
| 4 会議事項                          |                                                                                                                                                                                       |
| （1）国・県の動向と上田市の現状について            | ・事務局から資料に沿い、概要を説明                                                                                                                                                                     |
| （2）「上田市立中学校における部活動の方針（改定案）」について | ・事務局から資料に沿い、概要を説明                                                                                                                                                                     |
| （委員）                            | 県のガイドラインでは、原則、休日・平日ともに部活動を地域クラブ活動に移行している。県内でも部活動は廃止し、平日も含め地域へ移行する方針を表明している自治体があるが、上田市は平日の部活動を残した形で休日の移行を進めるのか。                                                                        |
| （事務局）                           | 平日の部活動を残しつつ、最終的には平日も含めて完全に地域に移行するという考えである。環境整備等も必要なため、平日は部活動を維持しながら、まずは休日の活動を地域クラブに移行し、内容を検証しながら平日を段階的に地域クラブ活動へ移行していきたい。                                                              |
| （委員）                            | 休日の地域クラブ活動は、部活動の延長としての活動になるのか。それとも休日は部活動とは切り離し、心身の健康維持増進やスポーツを楽しむための活動に方向転換するのか。                                                                                                      |
| （事務局）                           | 平日の部活動の姿をそのまま残して休日の指導者を変えるということではなく、休日は生徒たちが興味関心のある活動に参加する。平日の部活動を延長する形で休日の活動を行うことも想定されるが、そもそも休日は義務ではなく様々な活動ができる機会として、平日とは違う活動に参加できることを周知していきたい。                                      |
| （委員）                            | 方針案は国や県に準じた内容なので大きな変更の必要はないと思う。活動時間について、遅くとも午後7時までに活動を終わらせるとあるが、片付け等も含めて午後7時までとするなど、細かな議論はあるが方針としては良いと思う。一番審議すべきところは、先ほど意見のあった休日と平日のそれぞれの活動の部分である。                                    |
| （事務局）                           | 本日も集まりの皆さんの所属団体にも意見を聞いていただき、細かな部分は修正していきたい。それを踏まえ次の協議会で改正案を示したいと考えている。                                                                                                                |
| （議長）                            | 大きな方向性としては良いのではないかと御意見をいただいたが、他の方はどうか。                                                                                                                                                |
| （委員）                            | スポーツ少年団は、あくまでスポーツを指導する立場で活動している。部活動という言葉で教育の一環とする指針を前面に出されると、活動の中身を変えたり、設立経緯まで壊さなければならぬ。具体的に活動している団体からすると抽象的すぎる。部活動を廃止し、スポーツ少年団や                                                      |

地域クラブに入っていただくようにすれば、子どもたちは今までどおりスポーツができるし、学校でやりたい活動があれば、教育委員会で指導者を見つけその学校で活動すればいいのではないかな。

(事務局) 今回お示ししたのは中学校部活動の方針であり、これが地域移行後もずっと続くものではない。当面は部活動が残るため、学校での部活動についてはこの方針に沿っていただきたいというもの。地域クラブ活動やスポーツ少年団における活動をこの方針に沿って実施してほしいということではない。あくまで既存の学校部活動に関する方針ということで理解いただきたい。

(委員) 現在は部活動の方針に従って中体連も活動しており、中体連の大会に地域のスポーツ団体も参加できるようになった。地域クラブであっても部活動と同じ土台に立って競技をするため、活動時間等の条件を同じにしているところがある。地域移行が進めば、部活動の方針はいずれなくなるということで良いのでは。県でも、今後地域に移行した際の大会運営についてプロジェクトが立ち上がったので、大会を主催する連盟等が新たに方針を出してくるのではないかな。

(議長) 平日は残して休日だけ移行することもあり、移行期は大変な期間になる。部活動がなくなり地域に移行する際は、地域クラブ等はこの方針に従うものではない。移行期が大きな課題となるのでこの点について意見をいただきたい。

(委員) まずは休日、できるところから平日となっているが、県の指針も先行き不透明であることを含んでいると思う。地域移行が進まない原因は、部活動の受け皿、移行と言われることでハードルが大変高くなること。関係者や地域の方は、純粋に教えたい、楽しみたい、スポーツの良さを味わってほしいという気持ちで活動している。しかし、部活動と言われると人間教育的な意味も含まれてしまい、とてもそこまでは受けることができないという意見が多い。実際に、平日は部活動の練習、一方で休日は興味関心を大事にするという異なる方針で進めた場合、特に平日と休日と同じ種目を選んだ子どもたちは混乱しないかな。

(事務局) ご意見はよく分かる。初めてお示した案であり、本日成案とするわけではない。

(議長) 方針案については、大きな方向として、まずは休日の移行、平日はできるところから移行することによって進めていくことでよいか。この後の推進計画案にも、子どもたちの希望をどう受け止めるか、平日と休日をどのように移行していくか含まれているので、ご意見をいただきたい。

### (3) 「上田市部活動地域移行推進計画(案)」について

・事務局から資料に沿い、概要を説明

(委員) 事務局体制も含め運営団体を決めていくということだが、運営団体がコーディネーターとして地域に発信をしていくという解釈でよいか。

(事務局) 運営主体の中に事務局を置き、地域と学校、既存クラブを繋げたり、情報発信をしたりということを進めたい。運営主体をどこにするのか今回はお示しすることができないが、今おっしゃったような体制で進めていきたいと考えている。

(委員) 昨年の12月の協議会から約1年の期間があったが地域移行後の指導者、協力者がどれくらいいるか市で調査をしたか。

(事務局) 各学校の外部指導者数の調査はしたが、潜在的な部分や、他の総合型、スポーツ少年団等での指導状況等についての調査はしていない。

(委員) 地域に移行した場合、学校現場の先生方がどのぐらい協力してくれるのか、先生への調査はあるのか。

(事務局) 令和4年に調査を行ったが、先生の異動もあるため最新のデータではない。令和4年の調査の際には何かしら関わりたいという先生が一定数いらしかった。

(議長) 運営主体、コーディネーターの話もあった。外部指導者をどのような形にしていくのか、先生方の意向も計画の中には盛り込まれていくと考えてよいか。

(事務局) 今後調査やヒアリングをしながら、データを皆さまにお示ししたい。

### (4) 意見・交換

(議長) 先ほどから課題提起されている、各地域の団体の活動を部活動の受け皿としない形で地域移行を

進められるか、ご意見いただきたい。

(委員) スポーツ少年団としては、あくまで団という立場は崩さずスポーツをやりたい子どもたちを受け入れる。指導すること自体に問題はなく、現在中学生の指導をしていない少年団であっても指導ができると思う。子どもたちが希望する団に来れば活動できる形をとりたい。ただし、部活動の移行という感覚での指導を行うことは難しい。スポーツ少年団が学校へ行って指導するのは筋が違うという考えである。そこもしっかりとご議論いただきたい。部活動がいづれなくなるなら早くやめて、次の方針へ進んだ方がよいと思う。部活動の地域移行という文言がある限り、先は見えないのではないか。

(事務局) 部活動を地域に移行することは、スポーツ少年団の活動に部活動を乗せるということではないと考えている。部活動の目的は、子どもたちの自主的な活動として、自ら計画・活動する中で力を育てていくことである。スポーツ少年団としての目的を十分把握していないが、子どもの頃からスポーツを愛し、生涯にわたりスポーツを楽しむというところにあると思う。部活動を地域に移すのであれば、先ほど申し上げた自主的な活動を自分たちの力でという目的は外さなければいけないと考える。

現在、事務局として言葉が濁ってしまう状態になっているのは、子どもたちの意識がどうなのかという部分もある。子どもの意識は大きく3種類あると思う。一つはその競技で上の大会を目指したい、強くなりたいという意識。それからもう一つは、自由にいろんなスポーツに触れてみたい、あるいは休みは何もせずに過ごしたい。そしてもう一つはこの仲間と一緒に活動をしていきたい。これらの子どもたちの考えに対して、部活動が全て地域に移った時、この仲間と楽しみたい、もっと強くなりたいという場をどう作っていけばよいのか。

逆に地域移行せず学校部活動を残すとした場合、今までのように年がら年中練習して強くなりたいわけではないと思っている子どもの意見をどう受け止めていくか。そこが過渡期にあり校長先生方は苦しんでいらっしゃる。中体連の大会がどうなっていくのかゴールが見えないと、子どもたちの意識がどのように変わっていくかも見えないため、中途半端になってしまっているのではないか。子どもたちがどんな意識でいるか大事に考えていきたい。

(委員) 一番の問題は中体連の大会だと思う。中学校の部活動が目指すものが明確になっていないため方針が定まらない。子どもの多様な求めがあり、オリンピックで金メダルを取るような中学生に、ガイドラインにある1日2時間の活動や週に2日間の休みをあてはめるかといったらできない。普及と強化に明確に分けていかなければならない時にきており、県にも明確なビジョンを出していただきたい。クラブ等団体ごと、普及と強化のバランスがとれてくると良い気もするが、一つのクラブの中でも強化と普及の両立はできる。これからクラブを作るのなら、その両面を考えていく事が必要。

丸子地域では丸子北中、丸子中、依田窪南部中の3校でサッカーをやっている。人数の増減に関わらず今後もこの3校でやる予定。指導者としてそこに地域の方が来ればクラブという形になる。中学ではその形を基本にし、人数が足りない部活動は数合わせのため遠い学校と合同チームを組んでいるところもあるが、できればエリアを限定しその中で人数が足りなくなったらチームを作って活動したい。丸子地域、依田窪南部地域は複数の種目とその3校で形成されている。例えばそういうところにスポーツ少年団やクラブがあれば、そこに入って活動をする。なければ新しいクラブの設置をお願いしたい。実際にそのように動いていきたいという方も何人かいらっしゃるが、今の状況ではどういう方向にいくのか分からず動けない。早く方向性を出してほしいと

いう意見が非常に多い。思いを持っている方はいるので、そういう方が動けるようにすることが大事だと思うが、このスケジュール感で大丈夫か。次回の協議会も12月の中旬から下旬だということだが、中学校では来年度入学する1年生の説明会が1月に行われる。相当迷っており不安だという声も聞こえてくるため、今の6年生に1月の時点で明確な話をしてあげなければならない。スピード感を持って動かないと間に合わないのではないかと感じている。

(委員) 文化少年団は自分がやりたいと参加してくれるお子さん、子どもにやらせたいという親、それをさせたい指導者たちで活動している。前回アンケートで、ダンスや太鼓などをやりたいという回答があったが、学校にその部活がなくても文化少年団でできる。学校現場の応援ができるかどうかについては言いにくい、やりたいという中学生がいたら、それを支える用意だけは文化少年団もスポーツ少年団もあると思う。こういう場所、受け皿が上田市にもあることを、子どもたちや保護者の方に説明会の場で伝えてほしい。目には見えにくいかもしれないがそのように支える大人がいるということも伝えてほしい。

(委員) 上田市のロードマップをある程度早めに作った方がいい。中学校は今何をすればいいか、校長会としてはエリアでまとめて一緒にできないかということで、本校も野球、サッカー、女子バスケットは真田中と一緒にやっている。さらにサッカーは一中エリアでもやりたいという思いもある。

教育委員会でやること、中学でやること、さらに先ほどおっしゃったようにスポーツ少年団は何をするか。中学校に各競技部という受け皿がないところについては中学校の受け皿を作っていくとか。既存の上田市にあるクラブチームはどうするか、募集をするのか。いつまでにどんなことをすればいいのかが明確にならないと進んでいかないと思う。

休日を先行して行うということだが、休日は地域のクラブ活動で平日は部活動というダブルスタンダードになってしまうので、休日の活動をメインにして、平日は週に1、2時間、休日に教わったことを自主的にやる。先生たちはいずれ顧問ではなくなるのなら、安全面の確保のため延長部活動はやらないようにする。そんなことも考えられると思うので、ロードマップを作る際入れる項目を明確にするとわかりやすくなると思う。

(議長) それぞれの立場でいつまでに何をどのようにしていくかを明確にするのは非常に大切な指摘である。

(委員) スポーツ少年団は全部で50団体、子どもたちが1,500人以上関わっており県内で一番大きい規模である。そういった状況でボランティアとしてやっているため、市が、例えば中学生の受け皿を何とかお願いしたいという明確なビジョンを持っていただけならこちらも動ける。中途半端な形で言われても我々は動けない。

(委員) PTAに関わり、自分が部活動を行ってきた時の感度で今の子どもたちを見ると、その差が歴然である。世の中がこれほど変わっていることを保護者が理解するのも簡単ではない。ニュースでは聞こえてくるが、今後部活動がなくなるということを知っている保護者はまだほとんどいないと思う。それがいきなり発表されると、非常に困惑する保護者が多いだろうという感想を持った。

(委員) 方針についてだが、内容が曖昧で項目も多く、本当にできるのだろうかと感じる。もう少し深掘りしてほしい。自分の娘も部活に入ったが、顧問が全然来なかった。先生方がお忙しいのはわかるが、安全面で先生がいないと責任が取れないと思う。この方針はそもそも誰のためのものなのか。本当に子どものことを考えているのか。誰でも皆が主体的にという文言があるが、障がいの

あるお子さんや性別の差もあり、実際にはハードルの高いことである。あくまで自分の意見ではあるが、項目を絞って一つ一つ深掘りしないと厳しいと思う。

(議長) 厳しいご指摘もあるが、それぞれのお立場で子どもの思いを受けとめ、今何をどのようにしていけばいいのかが明確にわかるような推進計画を策定していくことが大事である。ご意見を基に次の会議に向けてまた案を修正いただきたい。

団体の皆様は今日出されたものを持ち帰って、それぞれの立場での意見を集約の上、教育委員会に伝えていただきたい。

5 事務連絡（事務局）

6 開 会（事務局）